

別記様式（第4条関係）

会 議 録

議 題	令和7年度大垣市文化施設運営委員会 （大垣市奥の細道むすびの地記念館企画展示部会） 1 報告 大垣市文化施設運営委員会について 2 議題 (1) 部会長の選出について (2) 副部会長の選出について (3) 令和7年度利用状況について (4) 令和7年度事業実績報告について (5) 令和8年度事業計画（案）について (6) その他		
	日 時	令和8年2月9日 13:30～15:00	場 所 大垣市役所 6階 教育委員会室 事務局 大垣市教育委員会事務局 文化振興課
出席者 (欠席者)	<委員> 佐藤 勝明（奥の細道むすびの地記念館総合監修者） 山下 廉太郎（学識経験者） 辻 公子（学識経験者） 後藤 麻衣子（その他教育長が適当と認める者） 高木 美保（その他教育長が適当と認める者） 平田 美歩（市民公募による者） <事務局> 馬淵 義昭（大垣市教育委員会事務局長） 鈴木 元（大垣市教育委員会事務局文化振興課長） 大橋 昭彦（大垣市教育委員会事務局文化振興課主幹） 吉田 晶（大垣市教育委員会事務局文化振興課主幹） 上嶋 康裕（大垣市教育委員会事務局文化振興課主任） 山崎 和真（大垣市教育委員会事務局文化振興課主任）	傍聴者数	0 人
		記録方式	全文・ <span style="border: 1px solid black;">要約</span>

【発言】

(議題1 部会長の選出について)

委員 ・ 総合監修者である佐藤委員が適任ではないか。

一同 ・ 異議なし、承認。

(議題2 副部会長の選出について)

委員 ・ 有識者である山下委員が適任ではないか。

一同 ・ 異議なし、承認

(議題3 令和7年度利用状況について)

委員 ・ アニメ「青春ブタ野郎」シリーズと大垣市の「城下町大垣イルミネーション」とのコラボレーション企画があつて入館者数が増加しているとのことであつたが、若い世代での増加ということか。

・ アンケートの集計結果では、50代以上で人数が減少しているようだが、何か要因はあるのか。

事務局 ・ コラボレーション企画にともなう入館者数の増加は、若い世代が多い。  
・ 50代以上でのアンケート回答数が減少していることについては、明確な理由は思い当たらないが、全体的にアンケートの回答数が少なくなっている状況にある。

委員 ・ 入館者数はどのような方法でカウントしているのか。

事務局 ・ 記念館全体の入館者数はセンサー、芭蕉館・先賢館の入館者数は入館券の販売数でカウントしている。

委員 ・ アンケートの形式と項目はどのようになっているのか。

事務局 ・アンケート用紙を記念館のパンフレットに挟み込んで渡し、受付で回収している。

※項目については、アンケート用紙を配布して確認。

委員 ・最近では QR コードを読み取って回答する形式が多くなってきているが、手軽であることから若い世代の回答率が上がっているとも聞くので、紙媒体の形式から QR コードの形式に転換するのもよいと思う。

事務局 ・文化振興課で所管している他の施設、大垣城や郷土館などでは、QR コード形式のアンケートも採用しているが、記念館のアンケートはクイズの解答用紙も兼ねているため、紙媒体の形式になっている。  
・QR コード形式のアンケートを採用している他の施設でも、アンケートになかなか回答してもらえていないというのが実状である。

委員 ・粗品がないとなかなか回答してもらえないので、シールなどちょっとしたものでも用意できないか、検討していただけるとありがたい。

事務局 ・記念館内には、芭蕉館に 3 問、先賢館に 2 問、計 5 問の 3 択クイズを用意している。それらに解答しながら館内を回れるよう、アンケート用紙の裏面にクイズの解答欄を設けている。受付にアンケート用紙を提出し、クイズに全問正解すると、粗品としてポストカードをもらえるようになっている。

委員 ・クイズの粗品はずっと同じものなのか。

事務局 ・これまでずっと同じ種類のポストカードを渡している。

委員 ・芭蕉真筆などの高画質な画像など、デジタルコンテンツは若い世代に喜ばれると思う。

委員 ・アンケートだけに回答しても粗品をもらえるのか。

事務局 ・アンケートに回答するとポストカード1枚、クイズに全問正解するとポストカード1枚、両方合わせると2枚となる。

委員 ・アンケートやクイズの返礼品については、バリエーションを増やしたりデジタルコンテンツを取り入れたりするなど、今後、さらなる工夫が必要である。

**(議題4 令和7年度事業実績報告について)**

委員 ・担当した学芸員からの補足はあるか。

事務局 ・夏季に開催した企画展は、大垣出身で治山・治水に尽力した金森吉次郎を取り上げたためか、定員70人の関連講座に99人もの参加があり、地元で興味・関心のある郷土の偉人を取り上げることができたと実感している。

・企画展を機に、金森吉次郎のご子孫から57点の資料の寄附を受けた。

委員 ・こどもミュージアムはどのように募集したのか。

事務局 ・市の広報、Instagram・LINEなどのSNSのほか、チラシを市内の小中学校に送り、対象学年に周知した。

委員 ・こどもミュージアムの参加者数は、何人の定員に対する人数なのか。

事務局 ・20人の定員に対する参加者数である。

委員 ・こどもミュージアムの内容は、今後、俳句に関する企画も展開していく予定なのか、それとも俳句以外の企画のみで展開していく予定なのか。

- 事務局
- ・俳句振興については、ふるさと魅力体験事業の中で小学6年生を対象に実施している。
  - ・こどもミュージアムについては、体験型の企画をいろいろと模索しているところである。
- 事務局
- ・こどもミュージアムは、記念館の企画展示から派生するテーマの中から子ども向けの事業を企画している。一方、子ども向けの俳句振興は、同じ文化振興課芸術・俳句文化推進グループが実施している。小学校から記念館に来て学習するふるさと魅力体験事業も含め、文化振興課全体で子ども向けの事業に取り組んでいるものをご理解いただければと思う。
- 委員
- ・ふるさと魅力体験事業のアンケートは実施しているのか。
- 事務局
- ・学校に対して個別にアンケートは実施していない。
- 委員
- ・子どもたちがふるさと魅力体験事業をどのように受け止めているのか、機会があればアンケートを実施していただけるとよいかと思う。
- 委員
- ・資料収集について、収蔵スペースにはまだ余裕はあるのか。
- 事務局
- ・収蔵スペースの余裕が少なくなってきているので、芭蕉・俳諧や先賢に関連した資料を収集の前提にしつつ、活用できるかどうかという観点で絞り込みながら受け入れるようにしてきている。
- 事務局
- ・近年、相続や代替わり、家じまいなどで資料寄附の申し出が多くなっている。文化振興課全体としては、各施設の性格に合わせつつ、統一のとれた方針で対応せざるをえず、収蔵スペースに余裕があるとはいえない状況である。

委員 ・博物館法が改正され、デジタルアーカイブの作成と公開が博物館事業に位置付けられた。これに関する取り組みはどのように進めているのか。

事務局 ・記念館で収蔵している資料は、新たに収蔵する際に撮影した写真データを蓄積している。それらのデータの公開方法については、文化振興課が所管している他の施設と足並みを揃えるため、調整しているところである。記念館単独でデータを公開するということはしていない。

(議題5 令和8年度事業実績計画(案)について)

委員 ・新たに始まる収蔵資料展とこれまでの企画展との位置付けの違いについて教えていただきたい。

事務局 ・収蔵資料展の目的は、記念館の開館以来収集してきた資料を広く公開することにある。企画展のようなテーマ設定に基づく展示では、収集してきた資料をまとまった形で公開することができない。テーマに合致した展示資料を収蔵資料の中から選んでいく場合、展示できる資料が一部の資料に限られてしまう。そこで、テーマに制約されず収蔵資料をまとまった形で幅広く公開する場として収蔵資料展を位置付け、開催を企画するに至った。

委員 ・令和8年度を第1回として、今後、毎年1回開催するのか。

事務局 ・毎年1回、収蔵資料展を開催する。

委員 ・こどもミュージアムは、和装本づくりが紙子づくりに変わるのか。

事務局 ・2つある体験講座をいきなり2つとも変えていくことは、こどもミュージアム自体がまだまだ模索段階にある中では難しいため、毎年1講座ずつ別の講座に変わる形で進めていく予定である。

委員 ・和装本は作ったものを持ち帰っていただいていたと思うが、紙子も同様であるのか。

事務局 ・同様である。参加者が材料費を負担し、作ったものを持ち帰れる形での実施を考えている。

委員 ・テーマが設定された企画展の場合、その展示のために集めた資料が出品されるという特別感が魅力につながるのに対し、収蔵資料展の場合、魅力が伝わりにくいという課題があるように思う。毎回何か小さなテーマを設けたりタイトルを付けたりするなどの工夫があるとよいと思う。

委員 ・せっかくの新しい企画であるので、市民が関心を寄せるようなタイトル設定も含めて、「行ってみたい」と思わせるような工夫があるとよい。

#### (議題 6 その他)

委員 ・事務局から各委員に意見を聞いてみたいことはあるか。

事務局 ・企画展や講座に関する告知方法について意見を伺いたい。現在、市の広報、メール・LINE・Instagram といった市の公式 SNS、市及び記念館のホームページ、無料の情報誌などによって企画展や講座の告知をしている。これら以外にも何か有効な告知方法があれば教えてほしい。

委員 ・たとえば、こどもミュージアムの紙子づくりが7月の終わりに予定されているが、「自由研究になるよ」、「作品が一つ作れちゃうよ」などのように、その時々話題に関連付けた発信や見せ方という工夫が有効な方法の一つとして考えられると思う。

委員 ・「自分にはわからない」と敬遠する人もいる。告知媒体に応じて、「自分が行ってもいいんだ」と思ってもらえるような表現が有効だと思う。

<p>委員</p>	<p>・私は小学校に勤めているが、小学6年生の記念館見学は、子どもたちが記念館に親しむ第一歩で、それをきっかけに家族での来館につながるとよいといつも思っている。ジオラマや触ることができる資料、子ども図録ノートやマンガなどを学校にいる立場からもっと宣伝していきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>・大垣市内の小中学校の教員が初任者研修で記念館を見学しているとのことだが、ちょうど教え子が社会科の教員をしていて、教科書にも江馬蘭齋が出てくる。その点で、記念館は教員の教材研究に使えると、教え子に話している。現場の教員たちが、授業をつくる上で、実際に来館して楽しいとかおもしろいと感じると、それが子どもたちにも伝わって、子どもたちの来館につながってくるかもしれないと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>・子どもたちが記念館見学で来館する以外にも学芸員が講師派遣の形で学校に出向いていくと、子どもたちが芭蕉や先賢に親しむ機会になり、成長するにつれて記念館の来館にもつながっていくのではないかなと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>・アンケート用紙は十六万市民投句の投句用紙も兼ねているようなので、番号欄があるとよい。また、アンケートの項目は、目的を明確にした上で精査するとよりよいものになるのではないかな。たとえば、記述内容を指定しない自由記述欄を設けるといろいろな意見を引き出せると思う。</p>
<p>委員</p>	<p>・アンケートの項目のうち展示の内容に関する項目に、「わかりやすい」・「わかりにくい」とあると、「わからないといけないのか」と感じてしまい、回答しにくい。展示内容が十分にわからなくても楽しいと感じることはあるので、「楽しかったか」と聞く項目にしてもよいと思う。</p>
<p>特記事項</p>	<p>なし</p>